

平成26年度第4回弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画審議会

日 時 平成27年1月29日(木) 午後3時～午後4時30分

場 所 弘前市役所特別会議室

出席委員 柴田典明、前田淳彦、葛西久志、奥寺開繁、今幸夫、花松由美子
吹田桃子、古川緑、村元千鶴子、對馬由美子、八木橋喜代治、佐藤兆運
欠席委員 田村瑞穂、山中朋子、竹島徹、木村留次郎

○ 第6期弘前市高齢者福祉計画・介護保険事業計画最終案について

介護福祉課 須藤課長が1～67ページについて説明

発言者	内 容
柴田副会長	説明ありがとうございます。ご意見・質問等ある方はいらっしゃいますか。
前田委員	いま、介護保険料の推移のところ、弘前市の保険料が全国平均よりもかなり高い位置にあるということで、第9期までの保険料の予測をお示しいただきました。現段階でも市の方では様々な施策を講じて保険料を抑えるように努力しているとの説明がありましたが、まだまだやれることはあると思います。 介護保険料が高くなってしまくと市民の方の負担が大きくなってしまいます。こんなことを言うのは少し申し上げにくいのですが、細かい部分で見えていくと、工夫できる点はもっとあると思います。そういった面では、さらなる努力をお願いしたいと思います。
須藤課長	確かに三回目までの審議会での施策を行ってまいりまして、現状でもケアプラン点検等で給付費の削減効果が表れています。ただ、今申し上げましたように健康で生き生きとした高齢者の方を増やすことが認定率の低下にもつながりますし、市民の日々の生活にも直接的に響いていくものであると考えております。ですので、介護の方に向かわない方々を増やしていくことが重要であると考えております。この点につきましては、今現在も行われている、「健康プロジェクト」の中でも対策を講じております。また来年度からは「健康づくりサポーター」というのもできますので、様々な施策を今後も講じていきたいと考えております。
柴田副会長	ほかにご意見等ある方はいらっしゃいますか。
葛西委員	65ページの下のところ「介護度別要介護認定率」のグラフが示されており、その中で弘前市・青森県・全国の比較がされており、先ほど事務局から説明があったように弘前市は要支援1の割合が非常に高くなっています。この要因について市の方で調査の方は行っているのか伺いたいです。
須藤課長	具体的な調査は行っていませんが、私どもの方では同規模の他自治体に比べて事業者数が多いと思われることから、地域でサービスを受ける人が多くなっているのではないかと推測しております。
葛西委員	元気で生き生きとした高齢者を増やしていきたいという市の目線から考えると、この要支援の部分の改善していく必要があると思います。先ほど健康プロジェクトについてのお話がありましたが、そのプロジェクトは具体的にどうなっていくのかちょっと見えてこないの、国からも要支援についてはいろいろと意見が出ている所なので、その点も踏まえて「健康づくりプロジェクト」の進め方について現段階の考え方でもよいので教えてください。

<p>須藤課長</p>	<p>健康づくりプロジェクトは他課が中心となって進めているので詳しいことは言えませんが、高齢者の関係では健康リーダーの皆様による活動で地域において体操等を行い筋力強化活動を行い、また教育委員会でも全世代の食育に関すること、保健関係では検診やがん予防等の様々な健康に関する取り組みで全体的な市民の健康推進を目指すことで、将来的には介護度低下につながっていくのではと考えております。</p> <p>ただ、今言ったことは3年間ですぐに効果が出るというようなものではないので長期的なスパンで健康な人を増やしていきたいと考えております。</p>
<p>葛西委員</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>あともう一点なのですが、いわゆる介護予防事業等は実際は包括等が取り組んでいるんだと思うんですけど、その辺の進み具合についてもお聞きしたいです。包括支援センター運営協議会の議事録等を見ても、なかなか事業がうまく動いていないように感じました。その辺のところもきちんとしていかないと予防は進んでいかないと、最終的には市の財源にも影響を与えていってしまうので、この点についても取り組みを強化していくべきだと感じました。</p>
<p>須藤課長</p>	<p>葛西委員が今おっしゃられたように、これから高齢者の人口がますます増えていきますので、包括支援センターの役割は今以上に重要になってくると思います。今後は認知症対策など様々な面で包括支援センターが中心となって動いていくことが増えていくと思います。第6期事業計画でも国の方から包括支援センターの活用が示されておりますので、それを参考にして私どもの方でも包括支援センターと協力して地域の高齢者の方々の健康のために取り組んでまいりたいと考えております。</p>
<p>柴田副会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。要支援・要介護にならないように、様々な施策を考え、元気な高齢者をできるだけ多く増やしていただきたいと思います。</p> <p>他に意見等はございますでしょうか。</p>
<p>村元委員</p>	<p>老人クラブに関してなのですが、私たち弘前市連合婦人会もそうですが、組織の人数が減り役員のなり手がなくなっているのが問題としてあります。せっかく行政が老人クラブの活動に力を入れようとしても、加入している人が少ないのでは意味がありません。組織を維持していくためにはまず組織に入るメリットを周知したうえで加入者数を増やしていく努力をしなければならないと思います。そのためには行政の職員の真剣度が必要だと思います。市役所OBが各地区にいると思うので、是非声掛けをしていただいて、老人クラブの一員としてもう一度弘前市のために活躍していただくべきだと思います。</p>
<p>須藤課長</p>	<p>いま村元委員からお話があったように、老人クラブの加入者数は年々減少傾向で、また役員のなり手もないというのも現状だと思います。事務局につきましては弘前市社会福祉協議会が取りまとめを担当しております。そこを通じまして我々も老人クラブの協力しております。今のお話のように、老人クラブの活動の活性化のために何をすべきなのかというのは、我々も悩んでいる所でもあります。というのも老人クラブの中には65歳から90歳以上と幅広い年齢層の方が加入しており、戦前と戦後の世代でジェネレーションギャップもあると伺っております。それを踏まえた上で、我々がどの程度助言できるのかというのは難しい部分であります。</p> <p>しかし老人クラブが衰退していくということは、地域の組織力が低下するということであり、非常に大きな問題であると考えているので、今のご意見を参考にして、我々の方でも老人クラブの方に手を差し伸べていきたいと思っております。</p>

花松委員	<p>老人クラブの加入者数・活動数が少なくなっていくというのは農村部の高齢者にとっては大きな問題です。高齢者のための教室は公民館や交流センターで行われているので、その周辺に住んでいる方は良いのですが、そこから離れたところに住んでいる車を持っていない人たちにとっては老人クラブ等の車で乗せていってくれる方がいなければ参加できないのです。</p> <p>そこで今後はそういった行事に参加しやすいように、各町会ごとに一人世話役を設置していただきたいと思います。町会の枠ごとの活動数を増やすことによって身近で顔見知りの方に会うために普段は家にいる方も交流しに来るようになると思います。また各町会には保健衛生委員がいるのでその保健衛生委員が地域の方の世話をしたり、包括と地域住民の橋渡しをできるようになれば地域活動の発展につながっていくと思います。</p>
福田部長	<p>確かに町会の中の役割として保健衛生委員の方がいらっしゃいます。いま健康づくり推進課というところが中心となって、健康づくりサポーターというのを町会ごとに選出させていただいて、その人が牽引役となって健康づくりを進めていこうと考えております。今お話にあった、保健衛生委員さんと重複しても構わないということで想定しておりましたので、27年度から健康づくりサポーターという形で町会の方で活動していただくことを前提として組織づくりを進めております。ですから結果的にそういった方が中心となって地域の中での健康づくりですとかコミュニティづくりと一緒にやっていければよいと考えております。</p> <p>弘前市の構造的な問題として認定率が高いというのと一人あたりの給付費が高いため、介護保険料が他市町村に比べて高くなっています。使われた介護サービス費を頭割りしたものが保険料ということになりますので、その辺の使い方というのももう一度考え直す必要があります。そのためにはやはり元気なお年寄りを増やしたい、介護のお世話にならないようにしていきたいというのが我々の願いであります。そのために運動教室であるとか、健康教室等を開いて健康に関する意識を高めていきたいと考えております。そしてこのことが介護費用、保険料の抑制につながっていくものと考えております。</p>
柴田副会長	<p>ただいま、福田部長の方から総括的な回答をいただきました。他に意見等がある委員はいらっしゃいますか。</p>
葛西委員	<p>審議会に参加して、感じていたことなのですが、認知症の方への支援がまだまだ足りないと思います。前にも言いましたが、精神科の病院に認知症の方が入院していて、三か月くらいたって退院するに当たりどこに行くかという、いま有料老人ホーム等がたくさんできていますけど、家族の希望としては特別養護老人ホームに入れたいわけです。先ほど地域密着型サービスということで居宅介護ができましたが、それはそれとして、市としてはお金がかからない方法でやれることがまだあると思います。例えば民間の助成金を活用するとか、国では在宅に力を入れていくという方針ですが、認知症に関しては施設サービスが一番重要なので、今一度考えていただけるように要望いたします。</p>
須藤課長	<p>昨日、国の方からも認知症について新たなプランを立てて、地域でも様々な施策を打ってほしいという報道がありました。また国際的にも、昨年末に認知症の会合があり、その場で安倍首相が「日本も認知症については力を入れていく」という旨のお話をされておりました。実際にこれからは認知症に関するオレンジプランに対する新たな追加プランが出てくると思っています。国の発表でも今後ますます認知症の方が増えるという数字も示されております。いかに地域の中で認知症への理解を得られる方を増やしていくかというのが重要ですので、国から示されている方針に沿いながら様々な施策を進めていきたいと考えております。</p>
柴田副会長	<p>回答ありがとうございます。他に何か意見等なければ私の方から簡単に意見を述べさせていただきます。</p> <p>私の気になる点はやはり介護保険料です。新聞等でも報道されておりますが、弘前市にはなるべく保険料を低くしていただきたいと思っています。若干話がそれるかもしれませんが、第一号被保険者は基本的には年金から天引きだったと記憶しております。しかし第二号被保険者については未納の部分があると思うんですが、そのところどうなのでしょう。</p>

齊藤主幹	<p>第二号被保険者の未納率については各保険者よりまとめて社会保険支払基金より交付金として公布されているため詳細は不明であります。通常のシステムとしては健康保険から天引き、または国保の方であれば国民健康保険料とともに徴収しております。収納率についてはそれぞれの保険者が把握しておりますので、介護福祉課の方では収納率についての総括的なデータは持ち合わせておりません。</p>
柴田副会長	<p>そうしますと国保の保険料未納者と同じくらいというわけですね。わかりました、ありがとうございます。</p> <p>今回は最後の審議会ということで、これまで委員の方々には様々な意見を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。介護保険料については事務局の方からいくつかの提案が出されました。高齢者がどんどん増えていっている現状では保険料の多少の増額は仕方ないかもしれませんが、私どもとしてはやはりできるだけ低い料金を設定していただきたいと考えております。行政はもちろんのこと、我々市民、そして介護施設の方々が一体となって介護保険制度の維持のためにさらなる努力が必要だと感じています。</p> <p>ということで、保険料を含めた事業計画案についてまとめる必要があるのですが、委員のみなさんから了承を得られたということでよろしいでしょうか。</p>
一同	異議なし。
柴田副会長	<p>市民の皆様の負担を考えると、できるだけ低い保険料に抑えるよう市には努力していただきたいという旨で審議会の意見をまとめたいと思います。異論等が無ければ審議会の意見をとりまとめたくて市長さんに報告したいと思っております。報告書の文言については私と事務局に一任いただきたいと思います。委員の皆様方よろしいでしょうか。</p>
一同	異議なし。
柴田副会長	<p>それでは今日までの審議会の意見等をまとめた上で報告したいと思っております。本来であれば田村会長が報告をするはずだったのですが、本日は欠席しておりましたので、私一人では心もとないの一名指名して一緒に報告していただきたいと思っております。薬剤師会の前田委員を指名いたしますので一緒に報告よろしく願いいたします。</p>
前田委員	わかりました。
柴田副会長	<p>先ほども言いましたが、この介護保険制度については行政と市民、そして事業者等が一体となって進めてしていく必要があると思っております。今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>それではこれで、第4回審議会を閉会したいと思います。</p>
福田部長	<p>柴田副会長どうもありがとうございました。先ほども申しあげました通り、67ページのグラフで何もせずに推計すると2番目の方になるのですが、いろいろな施策を打ち、市民・事業者の皆様のご理解を得ながら上進めていくと6600円または7900円の部分に落ち着くのではないかと推計し、提案させていただきました。またなおかつ、さらに低い保険料になるようにというご意見をいただきましたのでそれも踏まえて市長に報告させていただきたいと思っております。</p>
須藤課長	<p>本日配布の資料につきましては、厚労省から各サービスにおける数字がまだ示されておりました。厚労省からは2月初旬には数字が示される予定でございます。従いましてそれらの数字を入れ込んだうえで語句の訂正等を行い、後日改めて完成版を皆様に送付させていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>委員の皆様、長い間ご協力ありがとうございました。</p>

審議会終了後、柴田副会長と前田委員が審議会の意見をまとめて市長に報告した。